

## 5. 災害危険区域から避難所までの経路と所要時間

### 5.1 平良区

#### (1) 防災マップ



#### (コメント)

平良伊是名地域でも高潮被害が想定されるが、平良公民館よりも慶佐次公民館が近いため、慶佐次公民館とした。

#### (最近の災害事例)

- ① 平成 24 年台風 18 号で沖縄ポッカ食品(株)、JA おきなわ東支店で浸水被害が発生。
- ② 平成 19 年台風 4 号で高潮被害が発生。(道路への堆砂、商店の破損など)平成 19 年台風 4 号で高潮被害が発生。(道路への堆砂、商店の破損など)

なお、浸水被害は、平良川からの越流による。高潮は、平良湾の道路護岸を超えて被害が発生したが、現在は新たな護岸(平良)や人工リーフ(伊是名)が整備され、平成 24 年の台風では高潮による被害はなかった。

(2) 避難経路 詳細資料(平良:高潮災害)

ア 経路



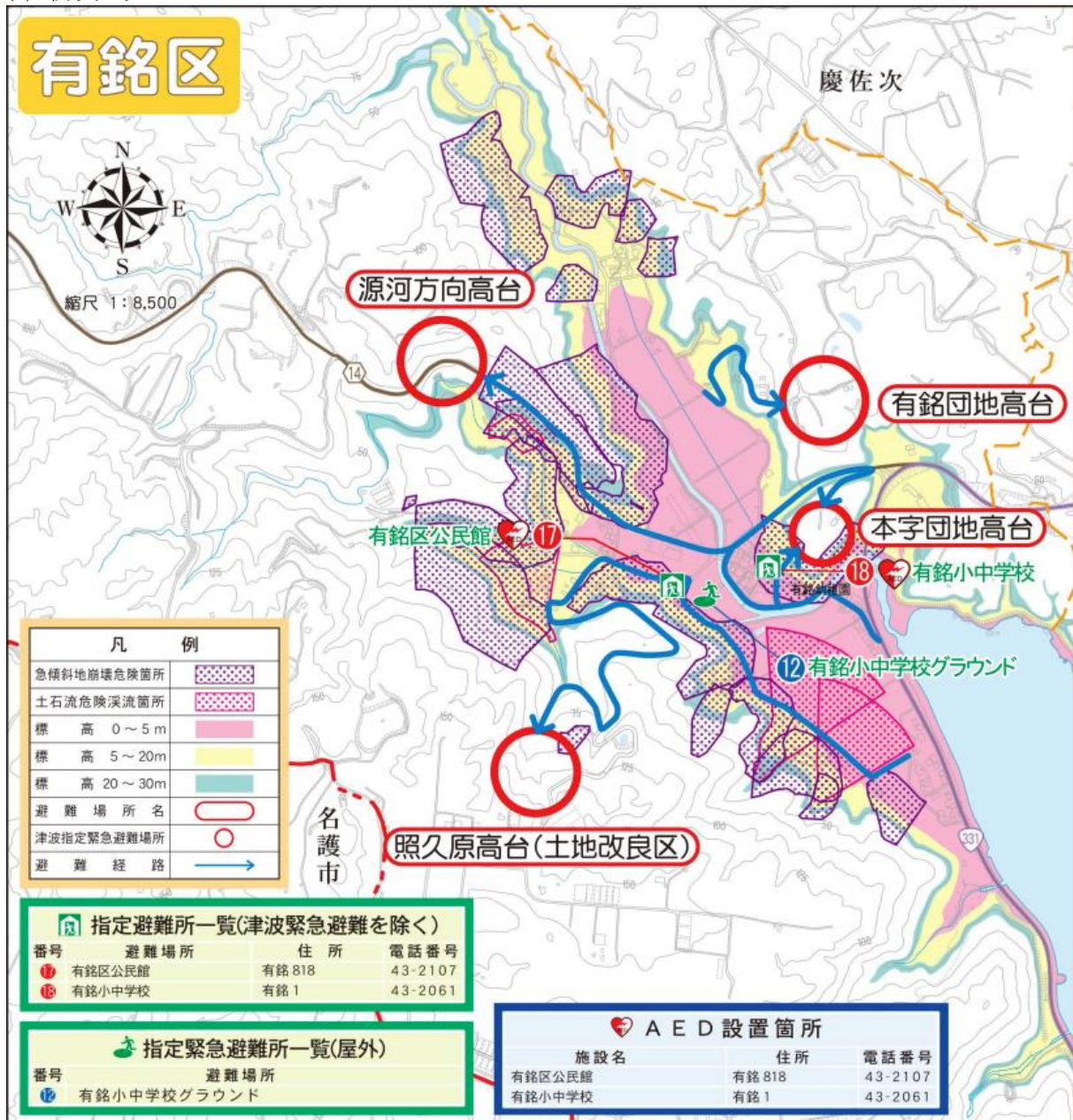
イ 徒歩による避難所までの所要時間

避難所:平良公民館、東村保健福祉センター

避難開始場所	ルート	避難先	距離 (m)	所要時間(分)		備考
				成人 (4km/hr)	高齢者 (2km/hr)	
沖縄ポッカ食品 (株)JA おきなわ 東支店		平良公民館	450	7	14	
		東村保険福祉 センター	350	5	11	
カナンスロー ファーム		平良公民館	250	4	8	
		東村保険福祉 センター	850	13	26	

## 5.2 有銘区

### (1) 防災マップ



#### (コメント)

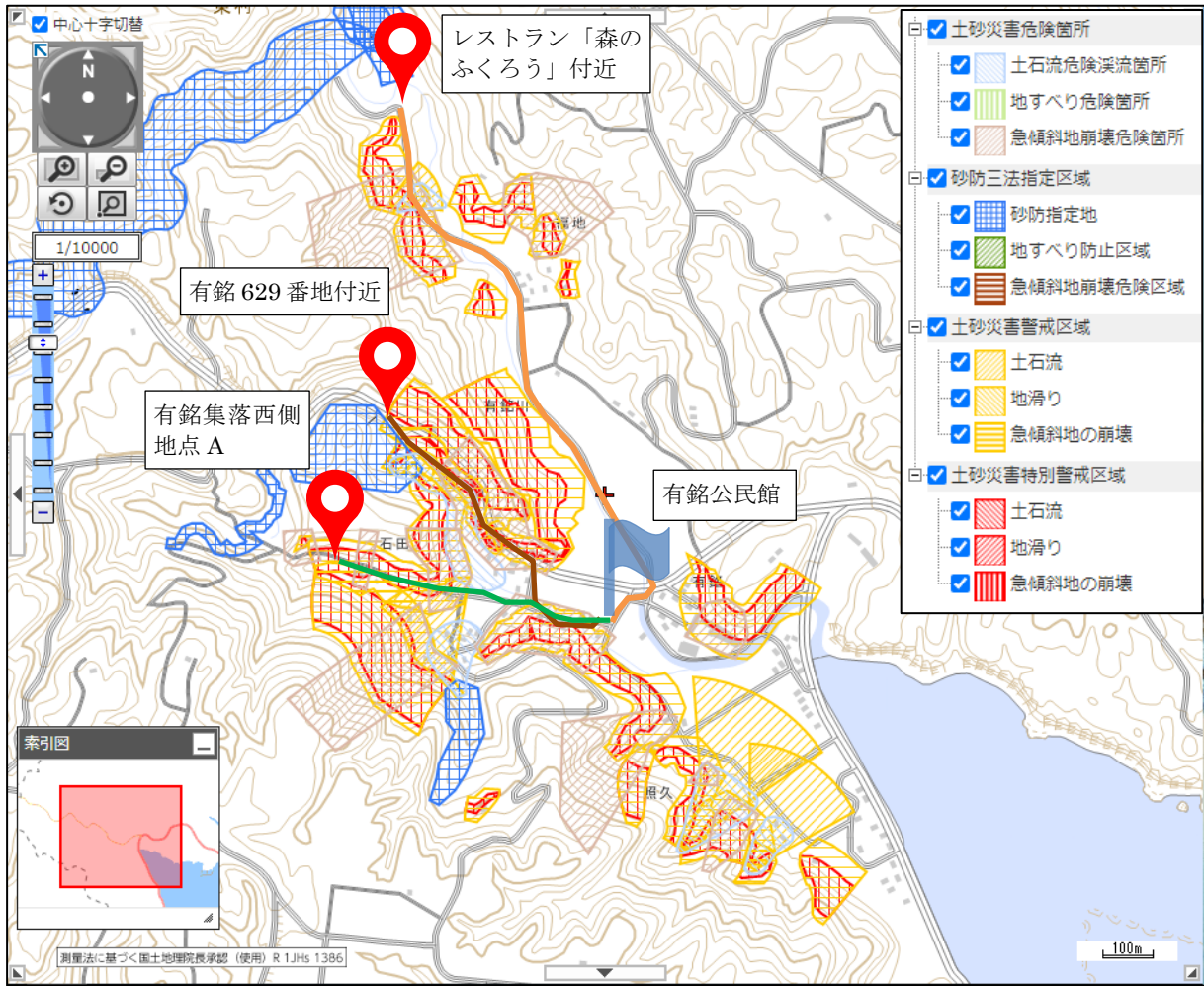
有銘地区では、有銘公民館と有銘小中学校が避難所として指定されているが、両施設とも急傾斜地崩壊危険箇所範囲内にあり、避難所が被災の懸念有り。

#### (最近の災害事例)

- ① 昭和 34 年台風第 18 号 (シャーロット) で山崩れにより死傷者有り。
- ② 平成 24 年台風第 16 号で住家への高潮、浸水被害が発生。

(2)避難経路 詳細資料(有銘:土砂災害)

ア 経路



イ 徒歩による避難所までの所要時間

避難所:有銘公民館

避難開始場所	ルート	避難先	距離 (m)	所要時間(分)		備考
				成人 (4km/hr)	高齢者 (2km/hr)	
レストラン「森のふくろう」付近	— (orange)	有銘公民館	1,300	21	42	
有銘 629 番地付近	— (brown)	有銘公民館	700	12	24	
有銘集落西側	— (green)	有銘公民館	500	8	16	

## 6. 風水害時における関係機関との協力体制及び担当者の連絡先

### 6.1 村内各災害危険地区における監視体制

風水害時における避難情報を発令する際の判断材料は、気象台等からの防災気象情報を基本とするが、各災害危険地区周辺の気象状況等に関する情報から、災害の切迫性を判断し、避難情報を発令することも場合によっては必要である。

このため、以下のとおり、各災害危険地区周辺に気象状況等監視のための要員を確保し備える。ただし、災害危険地区での監視作業は危険を伴うことから、監視を行う要因の安全面を優先し、無理や監視は行わず、自ら危険と判断した場合には速やかに避難することを確認しておく。

#### (1) 河川の水位監視

浸水危険地区の監視要員とその連絡先

区	河川名	監視要員	連絡先
有銘区	有銘川	氏名 ライブカメラ	
慶佐次区	慶佐次川	氏名 ライブカメラ	
平良区	平良川	氏名	
	宇出那覇川	氏名	
川田区	フガッタ川	氏名	
	サーン川	氏名	

#### (2) 土砂災害危険地区の監視

土砂災害危険区域の監視要員とその連絡先

区	監視区域	監視要員	連絡先
有銘区	照久	氏名	
	福地	氏名	
	石田	氏名	
	本字	氏名	
慶佐次		氏名	
川田		氏名	
高江		氏名	

#### (3) 潮位の監視

高潮浸水危険区域の監視要員とその連絡先

区	監視区域	監視要員	連絡先
有銘	有銘湾	氏名 ライブカメラ	
慶佐次	有銘湾（慶佐次川）	氏名	
平良	平良湾（平良）	氏名 ライブカメラ	
	平良湾（伊是名）	氏名	
川田	平良湾（川田）	氏名	

## 6.2 助言を求める関係機関

風水害時は、国や県は各自治体からの問合せに対して、助言を行う義務がある。このことから、平時及び異常気象時は、それぞれの対象災害が予想される（あるいはすでに発生）場合において、助言を求める。

各対象災害時の連絡先及び問合せの際のポイントを示す。

### (1) 連絡先

対象災害別の関係機関連絡先

対象災害		連絡先名	電話番号等
洪水害・浸水害	平時		
	異常気象時		
土砂災害	平時		
	異常気象時		
高潮	平時		
	異常気象時		
気象状況	平時		
	異常気象時		

### (2) 問合せのポイント

洪水害・浸水害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川工事の予定、不具合箇所等はないか。 ⇒氾濫時の影響を検討。</li> <li>・洪水害に至る気象予測の確認。（満潮時刻にも留意） ⇒避難情報発令の可能性の把握。河口付近では潮位上昇とともに河川水位の上昇（場合によっては逆流）のおそれがある。</li> </ul>
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害危険地区等の工事の予定、不具合箇所等はないか。</li> <li>・直近の大きな揺れ（震度5弱以上）を伴う地震による影響。 ⇒土砂災害発生に関して脆弱となっている場所はないか。</li> <li>・土砂災害発生に至る気象予測の確認。 ⇒これまで雨を考慮した予想及び今後の雨量見込みによる土砂災害発生の可能性の把握。</li> </ul>
高潮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤工事の予定、不具合箇所等はないか。 ⇒高潮発生時の影響を検討。</li> <li>・高潮を発生させる台風の進路予報や影響度の確認（満潮時刻にも留意） ⇒暴風となってからの避難は困難であり、高潮警報の予想で早めの避難情報発令を検討する。</li> </ul>
気象状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の気象状況の確認に加えて以下を確認</li> <li>・避難者が安全に避難できる時間帯の参考とするため、気象状況の把握に努める。台風接近時は、台風の進路や強度次第で、予想が大きく変わる場合もあることに留意。</li> </ul>

## 7. 避難情報の伝達文例

### 7.1. 防災行政無線

#### 7.1.1 情報伝達時の実施・配慮事項

災害発生の危険性がある状況において、災害の危険が去るまでの間、居住者等が適時的確な避難行動等をとることができるよう、関係機関からの情報や、自ら収集した情報等により、的確に判断を行い、躊躇することなく避難情報を発令し、速やかに居住者等に伝えるようにする。

特に、夜間や暴風時の立退き避難は危険を伴うため、夜間に災害の状況が悪化する見込みがある場合は、まだ日が明るいうちから避難情報を発令したり、暴風が吹き始める前に立退き避難が完了するように暴風警報が発表され次第、避難情報を発令する等、居住者等が安全に立退き避難をできるよう早めに避難情報を発令する。

避難情報を発令したときは、市町村長はその旨を都道府県知事に報告する必要があるため、情報伝達先、手段を確認しておく。その際、沖縄総合事務局や気象台、消防、警察等の関係機関にも情報伝達しておく。

緊急時の情報伝達においては、避難情報等が可能な限り居住者等一人一人に伝わるよう、多様な伝達手段・伝達媒体で情報伝達を行うとともに、居住者等に避難行動への負担感、過去の被災経験等を基準とした災害に対する危険性の認識、自分は災害に遭わないという思い込み(正常性バイアス)等が少なからずあること等を踏まえ、避難行動を強く促すことができるよう以下の点に配慮する。また、このような情報伝達の実効性を高めるため平時より必要な準備・他機関との調整・避難計画の作成(地区防災計画、個別計画、マイ・タイムライン、災害避難カード等)・避難訓練等を行っておく。

- ・時々刻々と変化する災害の状況や避難に関する情報を居住者等に対してわかりやすい言葉で伝達する。その際、避難の必要性を特に強調したい場合等においては、市町村長が避難指示の発令に合わせ防災行政無線で直接的に避難を呼びかけたり、緊急的な記者会見を行ったり、「直ちに指定緊急避難場所へ避難するか高いところへ避難せよ」と命令口調で呼びかける等、通常と異なる情報伝達を行うなど、居住者等の注意を引くことができるよう可能な限り工夫すること。
- ・防災気象情報について、自ら収集し、また、気象台や県等の関係機関に助言を求めることにより、その時点の状況や今後の見通し等を可能な限り幅広くかつ正確に把握し、居住者等に対して早い段階から情報伝達を行うこと。その際、増水している河川の映像情報の提供など直感的に危険であることが伝わるような情報伝達に努めること。
- ・適時的確に避難情報を発令し、とるべき具体的な避難行動を周知すること。その際、居住者等が避難しなければならないと我がこと感をもつことができるよう、発令対象区域は可能な限り絞り込み発令の対象者を明確にするとともに、具体的な地名を挙げて災害の状況を伝達したり、避難経路の通行止めの状況を合わせて伝える等、自らの身近に災害の危険が迫っていることを伝達すること。
- ・他者からの避難の呼びかけが大きな動機付けとなる場合があることから、避難情報の発令の際に、地域でお互いに避難行動を呼びかけることを促すこと。
- ・避難情報の発令後も、その内容を繰り返し伝達すること等により、居住者等に避難情報がより確実に伝わるよう努めること。伝達手段としては、防災行政無線、広報車、自主防災組織による声掛け等の直接居住者等に避難行動を促す手段を検討すること。
- ・他方、情報の受け手が混乱しないよう、避難情報の内容（発令する避難情報、発令理由、発令対象区域、発令対象世帯数等）に更新がない場合には、避難情報を再度「発令」したり、Lアラートにおいて「同一情報の再配信」をしたりしない。

### 7.1.2 具体的な情報伝達例(防災行政無線の伝達文例)

防災行政無線は、大量の情報を正確に伝達することが難しいことから、伝達文は簡潔にすること、避難行動をとってもらうために緊迫感のある表現で、対象者がとるべき行動を具体的に示すこと、風雨等で聞き取りづらいことから繰り返すことに留意する。

避難情報を発令する際には、対象者がとるべき避難行動を理解できるよう、どのような災害が、どの地域に発生するおそれがあるのか、どのような避難行動をとるべきか等を具体的に伝えることにも留意する。

防災行政無線を使用して口頭で伝達する場合、特に緊急性が高く、確実に住民の避難行動を促したい場合は、

- ・市町村長が避難指示の発令に合わせ防災行政無線で直接的に呼びかける
- ・緊急的な記者会見を行う
- ・「直ちに指定緊急避難場所へ避難するか高いところへ避難せよ」と命令口調で呼びかける等、通常とは異なる情報伝達を行い、居住者等の注意を引くようにするなど工夫する。

なお、伝達文は、①冒頭、②気象状況、③避難情報、④具体的な行動、⑤特記事項、⑥末文の各要素で構成されており、各要素のポイントを下表に示す。

伝達文の基本的な要素と内容

適用条件		例文適用時の条件 (例：□暴風警報発表 □土砂キキクルで赤色表示 など)
冒頭	強調文	伝達の緊急性を強調するために付加する文言。 例「緊急放送！緊急放送！」、「警戒レベル3！警戒レベル3！」等
	発信元	「こちらは、〇〇市です。」が基本であるが、市長自ら放送する場合は、「市長の〇〇です。」とする。
気象状況		伝達するに至った気象状況の説明 例 洪水害「〇〇川が増水し氾濫しました。」等 例 土砂災害「土砂災害警戒情報が発表されました。」等
避難情報	対象	避難情報の対象地区と対象者 例「〇〇地区にお住いの高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方」等
	種別	避難情報の種別等 例「警戒レベル3高齢者等避難を発令しました。」等
具体的な行動	対象	具体的な行動の対象地区と対象者 例「〇〇地区の土砂災害警戒区域付近の方は」等
	行動	避難情報発令に伴って促す対象者の具体的な行動 例「明るいうちの早めの時間帯での避難を開始してください。」等
特記事項		具体的な行動を補足するその他の行動等 例「近所の方にも声をかけながら避難してください。」等
末文		最後の締め文言。 例「繰り返しお知らせします。」等



7.1.4 災害毎の避難情報伝達例

伝達文例文一覧

例文番号	例文タイトル
(洪水・浸水害)	
例文 001	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (洪水警報発表)
例文 002	警戒レベル4 避難指示の伝達文 (洪水キキクル紫色表示)
例文 003	警戒レベル4 避難指示の伝達文 (水位到達情報 (氾濫危険水位))
例文 004	警戒レベル5 緊急安全確保の伝達文 (大雨特別警報 (浸水害) 発表)
例文 005	警戒レベル5 緊急安全確保の伝達文 (水位到達情報 (護岸天端高水位))
(土砂災害)	
例文 006	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (大雨注意報発表) ※大雨警報 (土砂災害) への切り替えの可能性に言及
例文 007	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (大雨警報 (土砂災害) 発表)
例文 008	警戒レベル4 避難指示の伝達文 (土砂災害警戒情報発表)
例文 009	警戒レベル5 緊急安全確保の伝達文 (大雨特別警報 (土砂災害) 発表)
例文 010	警戒レベル5 緊急安全確保の伝達文 (土砂災害発生の情報)
(台風・熱帯低気圧)	
例文 011	発達する熱帯低気圧接近時の伝達文 (発達する熱帯低気圧に関する気象情報発表)
例文 012	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (強風注意報発表) ※暴風警報への切り替えの可能性に言及
例文 013	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (高潮注意報発表) ※高潮警報への切り替えの可能性に言及
例文 014	警戒レベル3 高齢者等避難の伝達文 (暴風警報発表)
例文 015	警戒レベル4 避難指示の伝達文 (高潮警報発表) ※暴風警報未発表
例文 016	警戒レベル4 避難指示の伝達文 (暴風特別警報発表)
例文 017	警戒レベル5 緊急安全確保の伝達文 (暴風警報発表中に大雨特別警報発表)

(1) 洪水・浸水害

ア【例文001】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(洪水警報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 洪水警報発表 ( <input type="checkbox"/> 洪水キキクル赤色表示)
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇市に洪水の警報が発表されました。 ■〇〇川が増水し氾濫するおそれがあります。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の洪水浸水想定区域に対し、※1 (洪水浸水想定区域である〇〇地区に対し、※2)
	種別	■警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。 ■危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の洪水浸水想定区域にいる※1 (又は、「〇〇地区にいる」※2) (又は、「ハザードマップを確認し、浸水のおそれがある区域にいる」) 高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難してください。
特記事項		■なお、ハザードマップで、自宅が安全だと確認できる場合は、自宅内での避難も構いません。※3 ■それ以外の方も、不要不急の外出を控え、避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。 ■特に※4、急激に水位が上昇しやすい中小河川沿いにお住まいの方や避難経路が通行止めになるおそれがある方は、自主的に避難してください。  (以下は適宜追加) ■できるだけ明るい安全な時間帯に避難してください。 ■避難の際には、近所の方にも声をかけながら避難してください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 洪水浸水想定区域が地区の一部の場合。また、洪水浸水想定区域が公表されていない中小河川沿い等の居住者等に避難を促す場合には河川沿いや低い土地にお住まいの方等を対象に避難を促すことが考えられるが、このような場所は公表されている明確な区域ではないため、「河川沿いで浸水のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。）

※2 地区がほぼ浸水想定区域の場合。

※3 この呼びかけを行うにあたっては、「1.2.2 屋内安全確保」に記載の条件を満たした場合に居住者等の判断で屋内安全確保を実施可能であることについて、あらかじめ居住者等が理解しておく必要がある。）

※4 この部分は、地域の災害リスク等に応じた表現をあらかじめ定めておく。特に、内水氾濫による避難を伝達する場合は、地下街等の地下空間や低い土地にいる人へ、危険な場所からの避難を呼びかける。

イ【例文 002】警戒レベル4避難指示の伝達文(洪水キキクル紫色表示)

適用条件		□洪水警報発表 □洪水キキクル紫色表示
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル4！警戒レベル4！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇川の洪水の危険度が警報基準を大きく超え、洪水がすでに発生、またはすでに発生していてもおかしくない状況となっています。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の洪水浸水想定区域に対し、※1 (洪水浸水想定区域である〇〇地区に対し、※2)
	種別	■警戒レベル4「避難指示」を発令しました。 ■危険な場所から全員避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の洪水浸水想定区域にいる※1 (又は、「〇〇地区にいる」※2) (又は、「ハザードマップを確認し、浸水のおそれがある区域にいる」) すべての住民は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等への避難を完了してください。
特記事項		■ただし、避難場所等への立退き避難が危険な場合には、自宅や近くの建物など、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保してください。※3  (以下は適宜追加) ■避難の際には、近所の方にも声をかけながら避難してください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 洪水浸水想定区域が地区の一部の場合。また、洪水浸水想定区域が公表されていない中小河川沿い等の居住者等に避難を促す場合には河川沿いや低い土地にお住まいの方等を対象に避難を促すことが考えられるが、このような場所は公表されている明確な区域ではないため、「河川沿いで浸水のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。）

※2 地区がほぼ浸水想定区域の場合。

※3 警戒レベル5緊急安全確保発令時の避難行動であるため、必ずしもこのタイミングで伝達しなくてもよいが、急速な状況の悪化等により夜間・未明に警戒レベル4避難指示を発令する場合等においては、このような伝達をすることも考えられる。

ウ【例文 003】警戒レベル4避難指示の伝達文(水位到達情報(氾濫危険水位))

適用条件		□水位到達情報（氾濫危険水位）発表 （□洪水警報発表 □洪水キキクル紫色表示）
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル4！警戒レベル4！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇川が「氾濫危険水位」に達しました。 ■〇〇川の洪水や氾濫で家屋浸水等の危険性が高まっています。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の洪水浸水想定区域に対し、※1 （洪水浸水想定区域である〇〇地区に対し、※2）
	種別	■警戒レベル4「避難指示」を発令しました。 ■危険な場所から全員避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の洪水浸水想定区域にいる※1 （又は、「〇〇地区にいる」※2） （又は、「ハザードマップを確認し、浸水のおそれがある区域にいる」） すべての住民は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等への避難を完了してください。
特記事項		■ただし、避難場所等への立退き避難が危険な場合には、自宅や近くの建物など、少しでも浸水しにくい高い場所へ移動するなど、身の安全を確保してください。※3  （以下は適宜追加） ■避難の際には、近所の方にも声をかけながら避難してください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 洪水浸水想定区域が地区の一部の場合。また、洪水浸水想定区域が公表されていない中小河川沿い等の居住者等に避難を促す場合には河川沿いや低い土地にお住まいの方等を対象に避難を促すことが考えられるが、このような場所は公表されている明確な区域ではないため、「河川沿いで浸水のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。）

※2 地区がほぼ浸水想定区域の場合。

※3 警戒レベル5緊急安全確保発令時の避難行動であるため、必ずしもこのタイミングで伝達しなくてもよいが、急速な状況の悪化等により夜間・未明に警戒レベル4避難指示を発令する場合等においては、このような伝達をすることも考えられる。

エ 【例文 004】警戒レベル5緊急安全確保の伝達文(大雨特別警報(浸水害)発表)

適用条件		□大雨特別警報(浸水害)発表 (□浸水キキクル黒色表示 □洪水キキクル黒色表示)
冒頭	強調文	■緊急放送!緊急放送!(又は、警戒レベル5!警戒レベル5!)
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇市に浸水の大雨特別警報が発表されました。 ■すでに浸水害が発生、または浸水害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の洪水浸水想定区域に対し、※1 (洪水浸水想定区域である〇〇地区に対し、※2)
	種別	■警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。 ■命の危険が迫っています。直ちに安全確保が必要な状況です。
具体的行動	対象	■自宅がすでに浸水するなどして、避難場所への避難が困難な方は、
	行動	■自宅や近くの建物など、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保してください。
特記事項		以下は、状況に応じて適宜呼びかける。 ■絶対にあきらめず、最善を尽くしてください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 洪水浸水想定区域が地区の一部の場合。また、洪水浸水想定区域が公表されていない中小河川沿い等の居住者等に避難を促す場合には河川沿いや低い土地にお住まいの方等を対象に避難を促すことが考えられるが、このような場所は公表されている明確な区域ではないため、「河川沿いで浸水のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。）

※2 地区がほぼ浸水想定区域の場合。

オ 【例文 005】警戒レベル5緊急安全確保の伝達文(水位到達情報(護岸天端高水位))

適用条件		□水位到達情報(護岸天端高水位)発表 (□洪水警報発表 □洪水キキクル黒色表示)
冒頭	強調文	■緊急放送!緊急放送!(又は、氾濫発生!氾濫発生!)
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇川が氾濫しました。 ■一部住宅地では浸水害も発生しています。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の洪水浸水想定区域に対し、※1 (洪水浸水想定区域である〇〇地区に対し、※2)
	種別	■警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。 ■命の危険が迫っています。直ちに安全確保が必要な状況です。
具体的行動	対象	■自宅がすでに浸水するなどして、避難場所への避難が困難な方は、
	行動	■避難場所等への立退き避難が危険な場合には、 自宅や近くの建物で少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、 命の危険が迫っているので、直ちに身の安全を確保してください。 (具体的な災害の発生状況や考えられる被害、とりうる行動等を 可能な限り詳細に居住者等に伝達することに努める。)
特記事項		以下は、状況に応じて適宜呼びかける。 ■絶対にあきらめず、最善を尽くしてください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 洪水浸水想定区域が地区の一部の場合。また、洪水浸水想定区域が公表されていない中小河川沿い等の居住者等に避難を促す場合には河川沿いや低い土地にお住まいの方等を対象に避難を促すことが考えられるが、このような場所は公表されている明確な区域ではないため、「河川沿いで浸水のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

※2 地区がほぼ浸水想定区域の場合

(2) 土砂災害

ア【例文 006】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(大雨注意報発表) ※大雨警報(土砂災害)への切り替えの可能性に言及

適用条件		<input type="checkbox"/> 大雨注意報発表（ <input type="checkbox"/> 土砂キキクルが黄色表示） <input type="checkbox"/> 大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性に言及 <input type="checkbox"/> 警報発表が見込まれる時間帯は、高齢者等の避難が困難である
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇市では、今後の大雨で（ ）日（ ）までに ■土砂災害の大雨警報が発表される可能性があります。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の土砂災害警戒区域※1に対し、
	種別	■警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。 ■危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の土砂災害警戒区域※1にいる （又は、「ハザードマップを確認し、土砂災害のおそれがある区域にいる」） 高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等に避難してください。
特記事項		■それ以外の方も、不要不急の外出は控え、 避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。 ■特に※2、崖付近や沢沿いにお住まいの方や、 避難経路が通行止めになるおそれがある方は自主的に避難してください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 避難情報の発令対象区域は可能な限り絞り込む必要があることから、本例では土砂災害警戒区域の居住者等に対して発令することとしているが、当該区域以外の場所にも避難の呼びかけを行う場合には、例えば「山裾付近で土砂災害のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

※2 この部分は、地域の災害リスク等に応じた表現をあらかじめ定めておく。

イ【例文 007】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(大雨警報(土砂災害)発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 大雨警報（土砂災害）発表　　（ <input type="checkbox"/> 土砂キキクルが赤色表示）
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		<p>■〇〇市に土砂災害の大雨警報が発表されました。</p> <p>■今後の大雨で土砂災害が発生するおそれがあります。</p>
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の土砂災害警戒区域※1に対し、
	種別	<p>■警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。</p> <p>■危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。</p>
具体的行動	対象	<p>■〇〇地区の土砂災害警戒区域※1にいる （又は、「ハザードマップを確認し、土砂災害のおそれがある区域にいる」） 高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方は、</p>
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難してください。
特記事項		<p>■それ以外の方も、不要不急の外出を控えたり、 避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。</p> <p>■特に※2、崖付近や沢沿いにお住まいの方や、 避難経路が通行止めになるおそれがある方は自主的に避難してください。</p>
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 避難情報の発令対象区域は可能な限り絞り込む必要があることから、本例では土砂災害警戒区域の居住者等に対して発令することとしているが、当該区域以外の場所にも避難の呼びかけを行う場合には、例えば「山裾付近で土砂災害のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

※2 この部分は、地域の災害リスク等に応じた表現をあらかじめ定めておく。



ウ 【例文 008】警戒レベル4避難指示の伝達文(土砂災害警戒情報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報発表 ( <input type="checkbox"/> 土砂キキクルが紫表示)
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル4！警戒レベル4！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		<p>■〇〇市に土砂災害警戒情報が発表されました。</p> <p>■土砂災害発生の危険性が高まっています。</p>
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の土砂災害警戒区域※1に対し、
	種別	<p>■警戒レベル4「避難指示」を発令しました。</p> <p>■危険な場所から全員避難が必要な状況です。</p>
具体的行動	対象	■〇〇地区の土砂災害警戒区域※1にいる方は、 (又は、「ハザードマップを確認し、土砂災害のおそれがある区域にいる方は、」) 高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等に今すぐ避難を開始し、 早めに避難を完了するようにしてください。
特記事項		<p>■ただし、避難場所等への立退き避難が危険な場合には、 少しでも崖や沢から離れた建物や自宅内の部屋に移動するなど、 身の安全を確保してください。※2</p> <p>(以下は適宜追加)</p> <p>■避難の際には、近所の方にも声をかけながら避難してください。</p>
未文		■繰り返しお知らせします。

※1 避難情報の発令対象区域は可能な限り絞り込む必要があることから、本例では土砂災害警戒区域の居住者等に対して発令することとしているが、当該区域以外の場所にも避難の呼びかけを行う場合には、例えば「山裾付近で土砂災害のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

※2 警戒レベル5緊急安全確保発令時の避難行動であるため、必ずしもこのタイミングで伝達しなくてもよいが、急速な状況の悪化等により夜間・未明に警戒レベル4避難指示を発令する場合等においては、このような伝達をすることも考えられる。

エ 【例文 009】警戒レベル5緊急安全確保の伝達文(大雨特別警報(土砂災害)発表)

適用条件		□大雨特別警報（土砂災害）発表      (□土砂キキクルが黒表示)
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル5！警戒レベル5！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇市に土砂災害の大雨特別警報が発表されました。 ■土砂災害が既に発生している可能性が極めて高い状況となっています。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の土砂災害警戒区域※1に対し、
	種別	■警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。 ■命の危険が迫っています。直ちに安全確保が必要な状況です。
具体的行動	対象	■避難場所等への立退き避難が危険だと判断した場合は、
	行動	■命の危険が迫っています。少しでも崖や沢から離れた建物や、自宅の2階の崖から離れた部屋に移動するなど、直ちに身の安全の確保を行ってください。
特記事項		■避難場所等への立退き避難が危険な場合には無理をせず、 屋内での安全確保を行ってください。  以下は、状況に応じて適宜呼びかける。 ■絶対にあきらめず、最善を尽くしてください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 避難情報の発令対象区域は可能な限り絞り込む必要があることから、本例では土砂災害警戒区域の居住者等に対して発令することとしているが、当該区域以外の場所にも避難の呼びかけを行う場合には、例えば「山裾付近で土砂災害のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

オ【例文 010】警戒レベル5緊急安全確保の伝達文(土砂災害の発生)

適用条件		<input type="checkbox"/> 土砂災害発生の情報（信頼できる情報） <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報発表中 <input type="checkbox"/> 今後も雨が激しくなる予想（気象台からの情報）
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、土砂災害発生！土砂災害発生！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■〇〇地区で土砂災害が発生しました。 以下は、状況に応じて適宜追加 ■今後も、土砂災害警戒情報が継続し、 1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り続く予想となっています。※1
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の土砂災害警戒区域※2に対し、
	種別	■警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。※3 ■命の危険が迫っています。直ちに安全確保が必要な状況です。
具体的行動	対象	■避難場所等への立退き避難が危険だと判断した場合は、
	行動	■少しでも崖や沢から離れた建物や自宅内の部屋に移動するなど、 命の危険が迫っているので、直ちに身の安全を確保してください。 （具体的な災害の発生状況や考えられる被害、とりうる行動等を可能な限り詳細に居住者等に伝達することに努める。）
特記事項		■避難場所等への立退き避難が危険な場合には無理をせず、 屋内安全確保に最善を尽くしてください。※3 以下は、状況に応じて適宜呼びかける。 ■絶対にあきらめず、最善を尽くしてください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 具体的な予想雨量や雨の降り方の表現方法については、最新の気象情報を確認、あるいは気象台へ確認する。

※2 避難情報の発令対象区域は可能な限り絞り込む必要があることから、本例では土砂災害警戒区域の居住者等に対して発令することとしているが、当該区域以外の場所にも避難の呼びかけを行う場合には、例えば「山裾付近で土砂災害のおそれがある〇〇地区に対し、」のように、具体的な地区に対して避難情報を発令することが考えられる。

※3 災害切迫時に警戒レベル5緊急安全確保を発令していない場合には、災害発生確認時に発令し、このように発令した旨を伝達文に含めることが考えられる。他方、災害切迫時に既に警戒レベル5緊急安全確保を発令済みである場合は、災害発生を確認した場合や、異なる災害種別の災害が切迫した場合（洪水が切迫し発令した後、土砂災害も切迫した場合等）でも、命を守る行動をとるよう既に求めているため、同一の居住者等に対し警戒レベル5緊急安全確保を再度発令することがないよう注意する。また、このような場合においては具体的な災害の状況や考えられる被害、とりうる行動等を可能な限り詳細に居住者等に伝達することに注力することが重要であり、「警戒レベル5緊急安全確保」を発令済みであることについては、必要に応じて情報提供することで差し支えない。

(3) 台風・熱帯低気圧

ア【例文 011】発達する熱帯低気圧接近時の伝達文(発達する熱帯低気圧に関する気象情報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 発達する熱帯低気圧に関する気象情報が発表 <input type="checkbox"/> 接近時に暴風となるおそれがある ※1
冒頭	強調文	(なし)
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■[                    ]で発生した熱帯低気圧が今後台風となり、 [     ]日[     ]頃に、〇〇地方へ最も接近する予想となっています。 ■今後、次第に風が強まり、暴風となるおそれがあります。
避難情報	対象	(なし)
	種別	(なし)
具体的行動	対象	(特に指定せず) ※全地域対象
	行動	■熱帯低気圧又は台風の接近に備えて、壊れそうな場所を補強する、風で飛ばされそうなものは片付けるなど、早めの台風対策をお願いします。
特記事項		(状況に応じて追記する) ※2
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 暴風が予想される場合にのみ伝達するという目安が考えられる。

※2 役場主催のイベントの開催可否等について、住民周知したい場合などが考えられる。

イ【例文 012】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(強風注意報発表) ※暴風警報への切り替えの可能性が高い旨に言及

適用条件		<input type="checkbox"/> 強風注意報発表 <input type="checkbox"/> 暴風警報への切り替えの可能性が高い旨に言及 ※1
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■[大型・超大型]で[強い・非常に強い・猛烈な]台風第[ ]号が、 ■[発達しながら・速い速度で・ゆっくりとした速度で]接近しています。 ■〇〇地方に強風注意報が発表されました。 ■今後、次第に風が強まり、[ ]には暴風となる予想となっています。
避難情報	対象	■〇〇市全域に ※2
	種別	■警戒レベル3高齢者等避難を発令しました。 ■危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■避難に支援を必要とする高齢者等や、自宅に留まっていた避難に不安のある方は、※3 あるいは以下を検討 ■古い木造住宅やプレハブ住宅にお住まいの方や、危険だと思う方は、
	行動	■風が強まる前に、（また明るい内に、）自主的に避難場所や安全な親戚・知人宅等に避難してください。 ■現在開設中の避難場所は、〇〇公民館、△△公民館、・・・です。 ■なお、台風の接近に備えて、壊れそうな場所を補強する、風で飛ばされそうなものは片付けるなど、風が強まる前の早めの台風対策もお願いします。  以下は、状況により適宜追加 ■避難場所や避難経路の確認も行い、常に最新の気象情報を確認しましょう。 ■懐中電灯や携帯用ラジオ、乾電池などの非常用具の確認も行いましょう。 ■飲料水や非常食、浴槽に水を張るなどの備えも適宜行ってください。
特記事項		(状況に応じて追記する) ※4
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 強風注意報発表時に24時間以内に暴風となる予想があった場合には、注意報の本文中に記述される。

※2 強風災害は、地域を絞ることが困難なため、対象は「〇〇全域」とし、住民自身が対象者であるかの判断を行うことになる。

※3 最大瞬間風速60m/s以上の風では、古い木造家屋などは倒壊し始める可能性が高くなるため、そのような危険家屋を把握している場合は、直接連絡をするなどして注意を促すことも必要である。

※4 役場主催のイベントの開催可否等について、住民周知したい場合などが考えられる。

ウ 【例文 013】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(高潮注意報発表) ※高潮警報への切り替えの可能性に言及

適用条件		<input type="checkbox"/> 高潮注意報発表 <input type="checkbox"/> 高潮警報への切り替える可能性が高い旨に言及 <input type="checkbox"/> 暴風警報発表前    ※1
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■[大型・超大型]で[強い・非常に強い・猛烈な]台風第[      ]号が、 ■[発達しながら・速い速度で・ゆっくりとした速度で]接近しています。 ■台風の接近に伴い、高潮氾濫が発生するおそれがあります。
避難情報	対象	■このため、 〇〇地区の高潮浸水想定区域に対し、※2 （又は、「高潮浸水想定区域である〇〇地区に対し、」※3）
	種別	■警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。 ■危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の高潮浸水想定区域にいる※2 （又は、「〇〇地区にいる」※3） （又は、「ハザードマップを確認し、浸水のおそれがある区域にいる」） ■高齢者や障害のある人など避難に時間のかかる方やその支援者の方は、
	行動	■避難場所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難してください。
特記事項		■ハザードマップで、自宅が安全だと確認できた場合は、 自宅で避難しても構いません。※4 ■それ以外の方も、不要不急の外出を控えたり 避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。 ■特に※5、海岸沿いにお住まいの方や避難経路が通行止めになるおそれがある 方は、自主的に避難してください。 ■今後、台風の接近により暴風となることを見込まれるため、 その前に避難してください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 暴風警報発表時は、安全な避難行動をとることが困難な状況となるため、

※2 高潮浸水想定区域が地区の一部の場合。

※3 地区がほぼ高潮浸水想定区域の場合。

※4 この呼びかけを行うにあたっては、「1.2.2屋内安全確保」に記載の条件を満たした場合に居住者等の判断で屋内安全確保を実施可能であることについて、あらかじめ居住者等が理解しておく必要がある。

※5 この部分は、地域の災害リスク等応じた表現をあらかじめ定めておく。

エ 【例文 014】警戒レベル3高齢者等避難の伝達文(暴風警報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 暴風警報発表 <input type="checkbox"/> (大雨警報の可能性が高い旨に言及した大雨注意報発表中) <input type="checkbox"/> (洪水警報の可能性が高い旨に言及した洪水注意報発表中) <input type="checkbox"/> (高潮警報の可能性が高い旨に言及した高潮注意報発表中)
冒頭	強調文	■ 緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル3！警戒レベル3！）
	発信元	■ こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■ [大型・超大型] で [強い・非常に強い・猛烈な] 台風第[ ]号が、 ■ [発達しながら・速い速度で・ゆっくりとした速度で] 接近しています。 ■ 台風の接近に伴い、次第に暴風となる見込みです。
避難情報	対象	■ このため、〇〇市全域に対し、
	種別	■ 警戒レベル3「高齢者等避難」を発令しました。 ■ 危険な場所から高齢者等は避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■ 避難に支援を必要とする高齢者や障害のある方は、※3 あるいは以下を検討 ■ 古い木造住宅やプレハブ住宅にお住まいの方など、 自宅に留まっての避難に不安のある方は、
	行動	■
特記事項		■ 暴風となってからの不要・不急の外出はたいへん危険ですので、 控えてください。 ■ 外が明らかに危険であると判断した場合は、無理に外出せず、 屋内での安全確保行動に最善を尽くしてください。
末文		■ 繰り返しお知らせします。

※1 高潮浸水想定区域が地区の一部の場合。

※2 地区がほぼ高潮浸水想定区域の場合。

※3 この呼びかけを行うにあたっては、「I. 2. 2 屋内安全確保」に記載の条件を満たした場合に居住者等の判断で屋内安全確保を実施可能であることについて、あらかじめ居住者等が理解しておく必要がある。

※4 この部分は、地域の災害リスク等応じた表現をあらかじめ定めておく。

※5 暴風が予想される場合に伝達する。

※6 警戒レベル5 緊急安全確保発令時の避難行動であるため、必ずしもこのタイミングで伝達しなくてもよいが、急速な状況の悪化等により夜間・未明に警戒レベル4 避難指示を発令する場合等においては、このような伝達をすることも考えられる。

オ【例文 015】警戒レベル4避難指示の伝達文(高潮警報発表) ※暴風警報未発表

適用条件		<input type="checkbox"/> 高潮警報発表 <input type="checkbox"/> 暴風警報未発表前 ※1
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル4！警戒レベル4！）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■（大型・超大型）で（強い・非常に強い・猛烈な）台風第（ ）号が、 ■（発達しながら・速い速度で・ゆっくりとした速度で）接近しています。 ■台風の接近に伴い、高潮氾濫が発生するおそれがあります。
避難情報	対象	■このため、〇〇地区の高潮浸水想定区域に対し、※2 （又は、「高潮浸水想定区域である〇〇地区に対し、」※3）
	種別	■警戒レベル4「避難指示」を発令しました。 ■危険な場所から全員避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■〇〇地区の高潮浸水想定区域にいる※2 （又は、「〇〇地区にいる」※3） （又は、「ハザードマップを確認し、浸水のおそれがある区域にいる」） ■住民は、
	行動	■ただちに避難場所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難し、避難を完了してください。
特記事項		■ハザードマップで、自宅が安全だと確認できた場合は、 自宅で避難しても構いません。※3 ■それ以外の方も、不要不急の外出を控えたり 避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。 ■特に※4、海岸沿いにお住まいの方や避難経路が通行止めになるおそれがある 方は、自主的に避難してください。 ■今後、台風の接近により暴風となることが見込まれるため、 その前に避難してください。※5
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 暴風警報発表時は、安全な避難行動をとることが困難な状況となるため、

※1 高潮浸水想定区域が地区の一部の場合。

※2 地区がほぼ高潮浸水想定区域の場合。

※3 この呼びかけを行うにあたっては、「1.2.2屋内安全確保」に記載の条件を満たした場合に居住者等の判断で屋内安全確保を実施可能であることについて、あらかじめ居住者等が理解しておく必要がある。

※4 この部分は、地域の災害リスク等応じた表現をあらかじめ定めておく。

※5 暴風が予想される場合に伝達する。



カ【例文 016】警戒レベル4避難指示の伝達文(暴風特別警報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 暴風特別警報発表 ※1 ( <input type="checkbox"/> 高潮特別警報発表の可能性が高い旨に言及した高潮注意報発表中) ※2 ( <input type="checkbox"/> 洪水警報発表の可能性が高い旨に言及した洪水注意報発表中) ※2 ( <input type="checkbox"/> 大雨警報発表の可能性が高い旨に言及した大雨注意報発表中) ※2 ( <input type="checkbox"/> 早期注意情報 (警報級の可能性) で大雨又は高潮が[中]以上) ※2
冒頭	強調文	■ 緊急放送！緊急放送！（又は、警戒レベル4！警戒レベル4！）
	発信元	■ こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■ 〇〇地方に暴風の特別警報が発表されました。 ■ 今後、記録的な暴風が吹くおそれがあります。
避難情報	対象	■ このため、〇〇市全域に、
	種別	■ 警戒レベル4「避難指示」を発令しました。 ■ 危険な場所から全員避難が必要な状況です。
具体的行動	対象	■ 古い木造住宅やプレハブ住宅にお住まいの方や、自宅に留まっただけの避難は危険だと思う方は、
	行動	■ 風が強まる前に、（また明るい内に、）自主的に避難場所や安全な親戚・知人宅等に避難してください。 ■ 現在開設中の避難場所は、〇〇公民館、△△公民館、・・・です。  以下は、状況に応じて適宜追加する ■ 特に今後、避難を伴う警報等が発表された場合は、記録的な暴風で避難が極めて困難な状況が想定されます。 ■ 高潮災害が想定される高潮浸水想定区域の方、 ※3 ■ 洪水などで浸水害が想定される洪水浸水想定区域の方、 ※3 ■ 大雨などで土砂災害が想定される土砂災害警戒区域の方、 ※3 ■ 避難場所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難開始し、警戒レベル4 避難指示までに避難を完了してください。
特記事項		■ 自宅が安全だと確認できる場合は、自宅内での避難も構いません。 ※4
末文		■ 繰り返しお知らせします。

※1 台風を要因とする特別警報が発表された場合は、記録的な暴風で被害が甚大化する恐れがあるため、通常より防災体制を1段高めた対応をしていく必要がある。

※2 警報の可能性に言及した注意報又は早期注意情報を確認し、暴風警報の可能性のある時間帯に大雨や高潮も警報級の可能性がある場合は、暴風特別警報が発表され、今後、避難が極めて困難となる状況を踏まえ、大雨や高潮の警報が発表された場合と同等に、対応を早める必要がある。

※3 該当する場合は追加する。

※4 この呼びかけを行うにあたっては、「1.2.2 屋内安全確保」に記載の条件を満たした場合に居住者等の判断で屋内安全確保を実施可能であることについて、あらかじめ居住者等が理解しておく必要がある。）

キ【例文 017】警戒レベル5緊急安全確保の伝達文(暴風警報発表中に大雨特別警報発表)

適用条件		<input type="checkbox"/> 暴風警報発表中 <input type="checkbox"/> 立ち退いての避難行動が困難な状況 <input type="checkbox"/> 大雨特別警報発表（浸水害・土砂災害の両方又はいずれか） <input type="checkbox"/> キキクルが黒色表示
冒頭	強調文	■緊急放送！緊急放送！（又は、「警戒レベル5！警戒レベル5！」）
	発信元	■こちらは、防災〇〇市です。
気象状況		■現在、〇〇地方は、台風第（      ）号の影響で暴風となっています。 ■台風接近に伴う大雨で、 ■すでに浸水している又は浸水害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。 ※1 ■すでに土砂災害が発生又は土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。 ※2
避難情報	対象	■このため、 ■〇〇地区の洪水浸水想定区域 ※1※3 ■〇〇地区の土砂災害警戒区域 ※2※3 ■に対し、
	種別	■警戒レベル5「緊急安全確保」を発令しました。 ■命の危険が迫っています。直ちに身の安全確保が必要な状況です。
具体的行動	対象	■自宅がすでに浸水し、外出が困難である方、 ※1 ■自宅周辺に崖や山など土砂災害危険区域近くにお住まいの方、 ※2 ■外が暴風で避難場所への避難が困難な方は、
	行動	■自宅や近くの建物など、少しでも浸水しにくい高い場所に移動する ※1 ■少しでも崖から離れた建物や、自宅の2階の崖から離れた部屋に移動する ※2 ■など、直ちに身の安全を確保してください。
特記事項		以下は、状況に応じて適宜呼びかける。 ■絶対にあきらめず、最善を尽くしてください。
末文		■繰り返しお知らせします。

※1 大雨特別警報（浸水害）発表の場合

※2 大雨特別警報（土砂災害）発表の場合

※3 「〇〇区域である〇〇地区」等、さらに地域を絞ることも考えられる。

## 7.2 緊急速報メール（エリアメール）

緊急速報メール用の広報文例を示す。文字数は全角・半角にかかわらずタイトル 15 文字以内、本文 200 文字以内(NTT ドコモは本文 500 文字)の制限がある。なお、視認性を高め、受信者により分かりやすく、情報または取るべき行動を伝えるため、緊急速報メールの基本構造（項末参照）を元に配信文を定型化してメール配信する。

### (1) 土砂災害警戒情報発表に伴う避難指示の広報文例

タイトル 15 文字	警戒レベル4 避難指示を発令
本文 200 文字	<p>危険な場所から全員避難</p> <p>〇〇市から発令 発令時間：●●月●●日●●時●●分 発令対象区域：□□地区、□□地区</p> <p>理由：〇〇市に土砂災害警戒情報が発表 土砂災害発生の危険性が高まっています</p> <p>行動要請：安全な場所へ避難 安全な親戚・知人宅への避難も検討、 近所の方へも声をかけて避難 ハザードマップで自宅の安全を確認できれば自 主避難も検討 開設避難所：■●公民館</p> <p>マスク、食料品、常備薬等必要なものを持参</p>

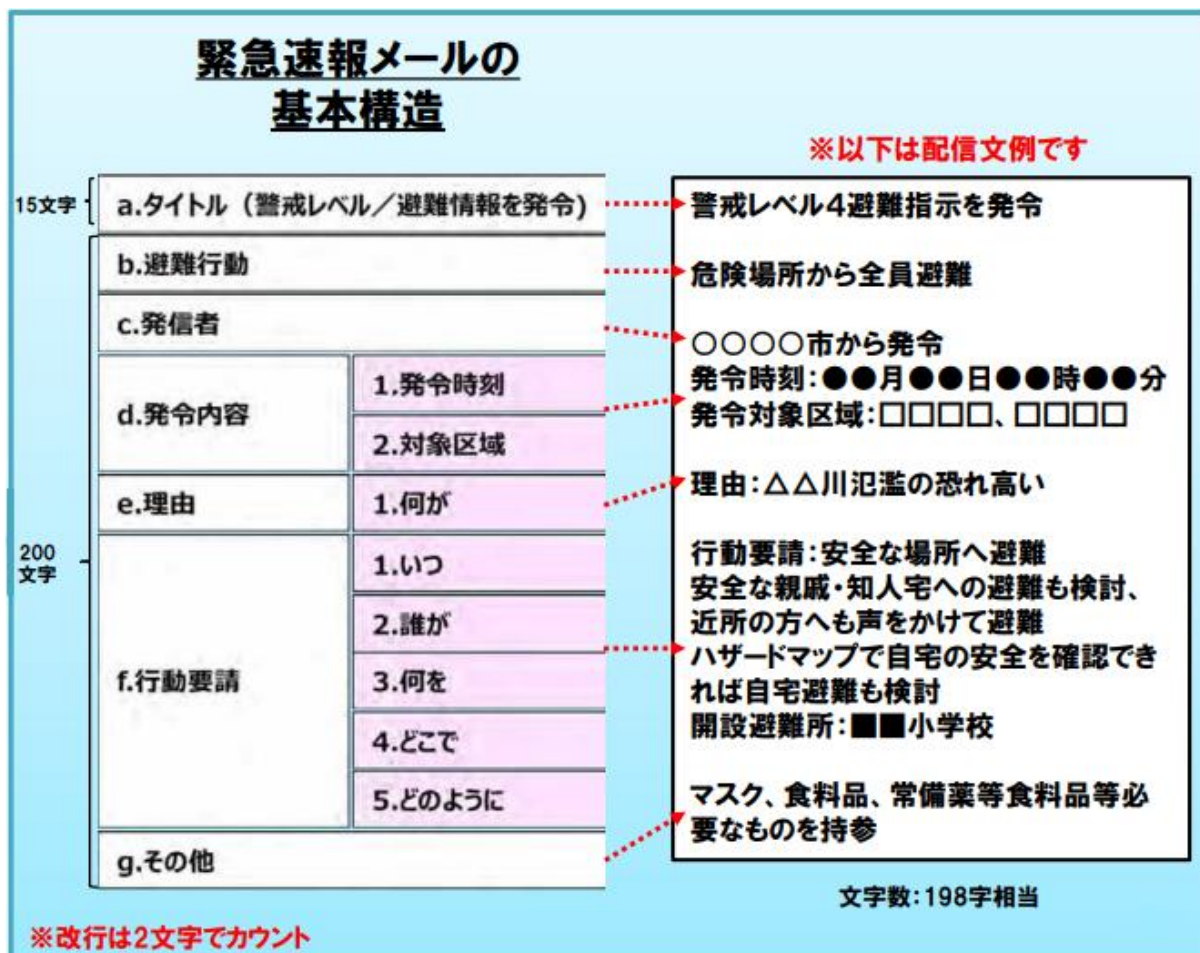
### (2) 高潮警報発表に伴う避難指示の広報文例

タイトル 15 文字	警戒レベル4 避難指示を発令
本文 200 文字	<p>危険な場所から全員避難</p> <p>〇〇市から発令 発令時間：●●月●●日●●時●●分 発令対象区域：□□地区、□□地区</p> <p>理由：〇〇市に高潮警報が発表 高潮による氾濫のおそれがあります。</p> <p>行動要請：安全な場所へ避難 安全な親戚・知人宅への避難も検討、 近所の方へも声をかけて避難 ハザードマップで自宅の安全を確認できれば自 主避難も検討 開設避難所：■●公民館</p> <p>マスク、食料品、常備薬等必要なものを持参</p>

(3) 暴風警報発表に伴う高齢者等避難の広報文例

タイトル 15文字	警戒レベル3高齢者等避難を発令
本文 200文字	<p>危険な場所から高齢者等は避難</p> <p>〇〇市から発令 発令時間：●●月●●日●●時●●分 発令対象区域：□□地区、□□地区</p> <p>理由：〇〇市に暴風警報が発表 暴風による災害のおそれがあります。</p> <p>行動要請：安全な場所へ避難 安全な親戚・知人宅への避難も検討、 自宅避難に不安があれば自主避難も検討 開設避難所：■●公民館</p> <p>マスク、食料品、常備薬等必要なものを持参</p>

<緊急速報メールの基本構造>



「緊急速報メール配信の手引き 第3.6版」より

<https://www.nttdocomo.co.jp/biz/binary/pdf/service/areamail/manual.pdf>